普及センターだより 2024

We LOVE 農業！！

～高梁の農業の動きを紹介します～

（表紙写真）

高梁市と連携した
就農相談対応

農業経営ステップアップ研修

S-ABA 処理による
ピオーネの着色向上実証

水田農業研修会

Online を活用した6次化研修

観光列車でのびほく産ぶどう PR

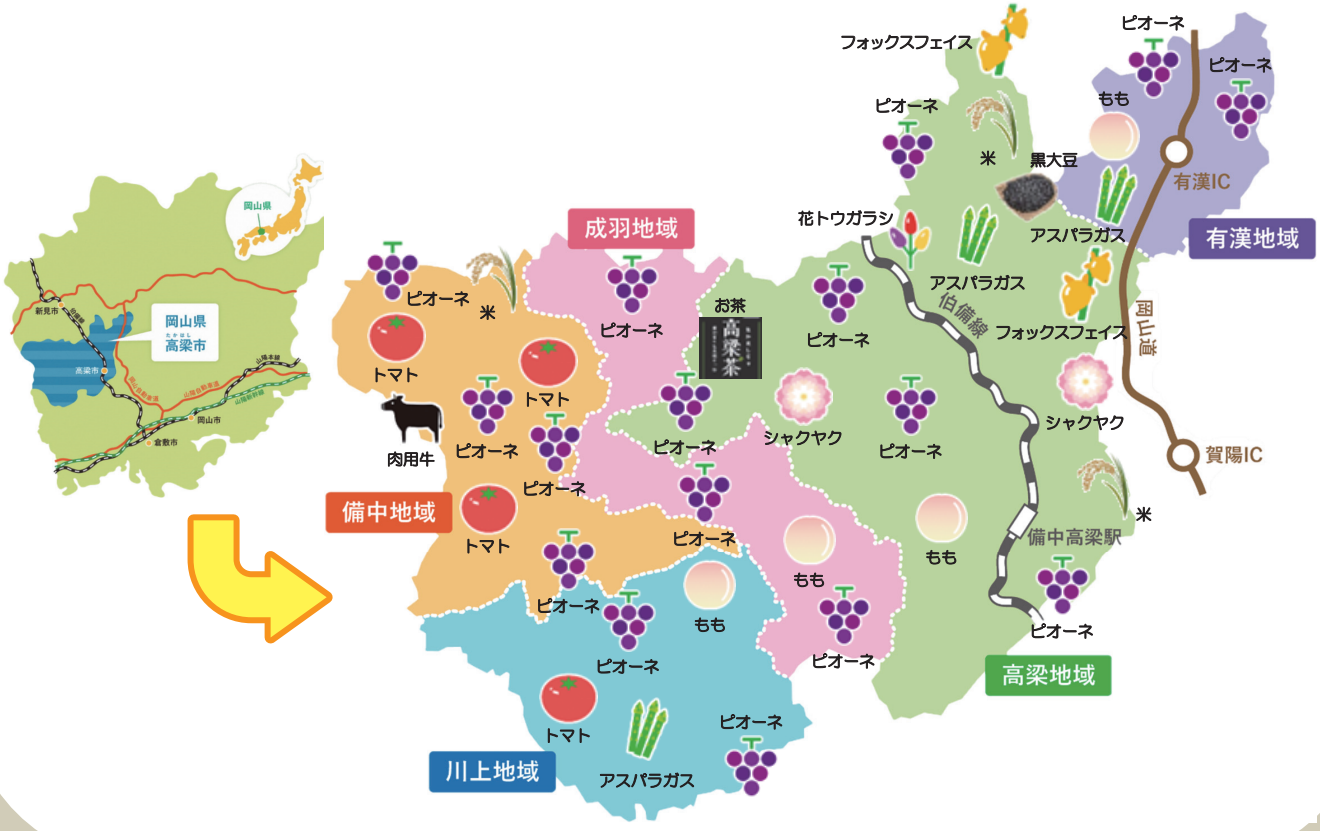
しゃくやく共進会

桃太郎シルクの巡回指導

目次

びほく産ピオーネのファンを増やすぞ！	1
ピオーネの着色向上による「美王®」増産を目指して	2
高梁市での就農に向けたお手伝いをしています	2
びほく産トマトの安定生産を目指して	3
ももカイガラムシ類の適期防除のススメ	4
バイオしゃくやく、現地試験へ！	4
持続可能な水田農業に向けてスマート農業を推進しています	5
水稲の低コスト安定生産に向けて	6
申告だけではもったいない！　決算書を経営改善に活用	6
代謝プロファイルテストで繁殖成績向上に取り組んでいます	7
新規就農者を紹介します！	8
おめでとうございます！～令和6年度受賞者･受賞団体～	9

高梁地域の農業の概要



びほく産ピオーネのファンを増やすぞ！

ＪＡ晴れの国岡山びほくぶどう生産部会、ＪＡ晴れの国岡山、普及指導センター、高梁市はプロジェクトチームを結成し、地域ブランド「天空の実り®」及び、びほく産ピオーネの上位等級「美王®」の知名度向上に取り組んでいます。

令和６年度は、（株）博報堂ＤＹメディアパートナーズと業務委託契約を締結し、マスメディアやＳＮＳを活用した情報発信と、店頭や観光イベントでの対面によるＰＲ活動を組み合わせた、「びほく産ピオーネファンづくり」に取り組みました。

博報堂による現地調査

大阪の百貨店でＰＲ

部会員が大阪のラジオ生放送に出演

ＪＲ大阪駅前でＰＲ

インスタフォロワー限定キャンペーン

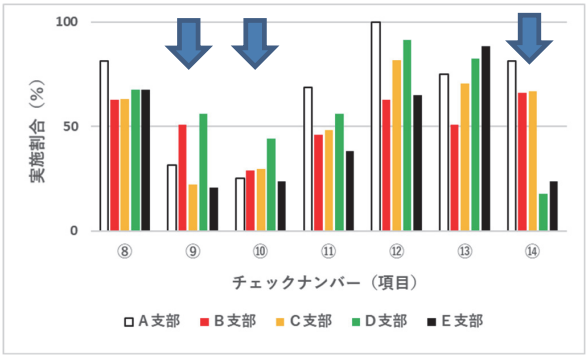
事前のマスメディアによる広報活動が効果的に働き、店頭や観光イベントでの対面によるＰＲ活動には非常に多くの人が集まり、大変盛り上がりました。また、インフルエンサーによるタイアップ投稿や、試食配布と併せて行った「美王インスタ公式アカウント」のＰＲ等によって、７月に立ち上げた公式アカウントのフォロワーは、９月末には 700 アカウントを超えるまでに増加しました。

ピオーネの着色向上による「美王®」増産を目指して

普及指導センターは令和６年度、ピオーネの着色向上を図るために 19 項目の栽培管理チェックリストを作成し、ＪＡ晴れの国岡山びほくぶどう生産部会の各講習会時に配布しました。支部により多少の差はありますが、実施割合が低い栽培管理項目は下記の３項目でした。ただし、本年度は前年以上の厳しい暑さが影響し、着色は平年より劣りました。

また、令和５、６年度にＳ－ＡＢＡ（アブサップ液剤）の効果確認試験を各支部で行った結果、Ｓ－ＡＢＡによる着色向上効果が確認でき、日持ち性に差はありませんでした。今後、Ｓ－ＡＢＡの導入について部会で協議する予定ですが、これらの調査結果を次年度以降の「美王®」の増産に活かしていきます。

実施割合が低かった項目 （グラフを参照）	⑨強勢樹（園）では満開期１回処理を実施している ⑩強勢樹（園）ではフルメット濃度を薄くしている ⑭梅雨明け後トンネル被覆を除去している



ピオーネ着色向上対策の実施割合

Ｓ－ＡＢＡ処理（上段）と無処理（下段）の品質比較

高梁市での就農に向けたお手伝いをしています

高梁市の高原地帯は、ぶどうと夏秋トマトの栽培に適した地域であり、ともに県内で最大の産地です。

新規就農者の確保のため、県内外の就農相談会への参加、受入地域を直接訪問する就農オリエンテーション等の開催、大阪ふるさと暮らし情報センターでのＰＲ等について、産地・市・ＪＡ等関係機関と連携し、産地の魅力を伝えています。

その結果、令和６年度は、２人がぶどうでの就農を目指して農業実務研修に取り組みました。

今後も、就農希望者の個別相談対応、農業実務研修生や就農して間もない新規就農者への巡回指導などを実施し、高梁市でのスムーズな就農に向け支援していきます。

就農オリエンテーション（園地見学）

農業実務研修生の巡回指導

びほく産トマトの安定生産を目指して

【新品種に統一し、出荷開始！】

ＪＡ晴れの国岡山びほくトマト部会は、タキイ種苗開発の新品種「桃太郎みなみ」を令和３年から試験栽培しており、令和５年度に普及指導センターによる生育調査で、従来品種と比較して、「裂果が少ない」、「秀品率が高い」、「生理障害が出にくい」等の優位性を確認しました。

また、令和５年度に地域ブランド名「桃太郎シルク」で販売したところ、市場関係者から「食味が良い」、「日持ちが良い」と高評価を受けたため、令和６年から栽培品種を統一し「天空の実り®桃太郎シルク」の名称で出荷しています。

「天空の実り®桃太郎シルク」

新品種の出荷進発式

【トマトハウス内高温抑制実証】

近年、夏場の異常高温で日中のハウス内温度が連日 40℃を超え、作業する生産者やハウス内作物への影響が問題となっています。そこで、７月下旬から９月上旬にかけて、低遮光の高遮熱シートをハウスにかけ、高温抑制効果を実証しました。

その結果、ハウス内の日中積算温度は、無処理ハウスに比べ大幅に低下し、果実品質は良くなりましたが、やや小玉になりました。また、９月からは早朝の気温低下によりハウス内に結露が発生し、斑点細菌病の発生が助長されたため、今後は被覆方法等の改善が必要と考えます。

遮熱シートをかけたトマトハウス

（左：無処理、右：遮熱シート設置）

	遮　熱 シート	日中(6時～18時)積算温度(℃)
外気温	-	18,874
ハウス内温度	無	19,335
	有	18,080

＜調査期間(8/1～9/17)の結果＞

・ハウスに遮熱シートをかけることで日中積算温度が無処理ハウスより1,255℃低下しました。

・また、外気温と比べても794℃低くなりました。

ももカイガラムシ類の適期防除のススメ

もも農家から、「カイガラムシにやられた！」との声が年々増えてきています。

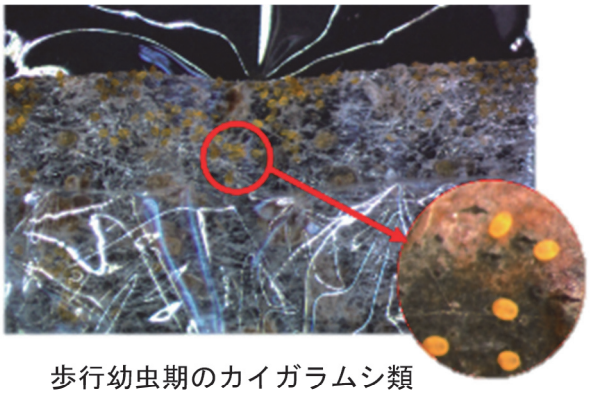
白い殻をかぶった成虫には農薬が直接付着しませんが、殻が発達していない歩行幼虫期には薬剤が付着し、防除効果が期待できます。薬剤が付着する歩行幼虫期はわずか数日間であるため、適期防除の判断が重要な害虫です。

普及指導センターでは、防除適期を把握することを目的に、昨年度まで被害の多かったほ場に４～５月にバンドトラップを設置し、ＪＡと協力して適期防除を周知しました。

その結果、生育期間中の被害を抑えることができました。

防除上の注意点

- 薬剤の掛けむらをなくすことが大切。
- 枝を洗うように丁寧に、十分な量（500Ｌ/10a 程度まくつもりで）を散布する。
- カイガラムシ類の種類によって幼虫の発生時期が異なる。



歩行幼虫期のカイガラムシ類

トラップ設置例（両面テープをふんわり巻く）

バイオしゃくやく、現地試験へ！

ＪＡ晴れの国岡山びほく花木生産部会は、地域特産花きしゃくやくの生産振興のため、バイオテクノロジーを活用した無病苗生産に力を入れています。

平成 24 年から、バイオしゃくやくの増殖と育苗に取り組んできましたが、生育が不安定で生産者へ安定供給ができていませんでした。

そこで、令和３年から県農業研究所と協力し技術改善を行った結果、育苗技術が向上し、良質な育苗株の生産が可能となったため、令和６年秋から現地試験に取り組んでいます。本年度は生産者７戸のほ場に定植しており、令和７年以降、生育を確認し、しゃくやくの生産性向上を支援していきます。

育苗株が順調に開花

現地栽培試験ほ場へ定植